

初陣での活躍に期待

鹿島学園女子サッカー部が全国大会初出場



11月29日、鹿島学園高等学校女子サッカー部が錦織孝一市長を表敬訪問し、第27回全日本高等学校女子サッカー選手権大会出場を報告しました。同サッカー部は、11月18日に開催された関東大会において7位決定戦に勝利し、県内では初となる本大会出場を決めました。

本大会は、1月3日(木)から13日(日)までの期間、兵庫県を会場に開催され、各地方大会から勝ち上がった合計32チーム(関東からは7チーム)が出場し、熱戦を繰り広げます。

キャプテンの池田優希さん(3年)は「本大会でも精一杯がんばります」と力強く抱負を語りました。鹿島学園の初戦は、1月3日(木)にいびきの森球技場(神戸市)で、私立播磨高等学校(兵庫県)と対戦します。がんばれ、鹿島学園高等学校女子サッカー部!

交通ルールの大切さを学ぶ

大野中学校で自転車交通安全教室

12月11日、大野中学校で自転車交通安全教室(協力:JA共済連茨城、鹿嶋警察署)が開催されました。この教室は、交通事故をスタントマンによって再現することで交通ルールの大切さを学ぶもので、同中学校全生徒のほか大同東小学校6年生の児童も参加しました。



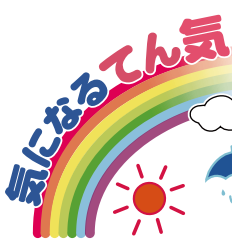
自転車事故の再現では、飛び出しによる衝突、片手でスマートフォンや傘を持ちながらの運転での衝突などが実演されました。事故の再現後には、交通ルールを守った場合も実演され、ルールを守れば事故が起きないことを参加者全員で確認しました。

新日鐵住金(株)鹿島製鐵所自衛防災組織が奨励賞 石油コンビナート等の自衛防災組織の技能コンテスト

石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテスト(主催:総務省消防庁)において、新日鐵住金(株)鹿島製鐵所自衛防災組織が奨励賞を受賞し、12月18日、鹿島地方事務組合消防本部でその伝達式が行われました。このコンテストは、石油コンビナートなどで発生した災害に対応するための自衛防災組織の技能および士気の向上と防災力強化を目的に実施されています。



今年度は全国の管轄消防本部から推薦された42組織が出場し、大型化学高所放水車および泡原液搬送車または高所放水車および化学消防車を使用した競技が行われ、審査の結果、20組織が表彰されました。



古川博士の気象コラム

古川 武彦…理学博士。元気象庁予報課長、札幌管区気象台長。退官後に「気象コンパス」を立ち上げ、気象の啓発活動などを行う。



これから春先に向けて、関東地方の太平洋岸では、時折、思わぬ雪に見舞われます。この時期、関東南部に雪や雨をもたらす「南岸低気圧」は、普通の低気圧とは発生地域やコースが異なり、台湾付近で生まれて東に進み、ほぼ24時間後には関東の沖合に達します。気温や通過位置など、わずかな差で急発達して大雪を降らせることもあります。

さて今回は、雪の結晶の話題です。雲は水蒸気が上空で凝結して生まれる微細な水滴で、球状の雲粒であるのに対し、雪の場合は氷粒です。水蒸気でできた氷粒が互

いにぶつかり合いながら成長し、写真のような結晶(雪片)となって地上に落下します。

結晶の形は、柱状、樹枝状、板状などさまざまです。この形状は、雪が生まれるときの上空の気象条件で決まります。気象学者の故・中谷吉郎さんは、結晶の形を温度と湿度の二つで分類し、「雪は天から送られた手紙」という名言を残しました。結晶を見れば、雪の故郷と成長の過程が分かるということです。

結晶の写真は、あらかじめ冷やした黒っぽい布や板で雪を受け、カメラのマクロレンズやスマートフォンのズームレンズを使うことで手軽に撮影できます。

雪が降ったときに、ぜひ試してみてください。



▲結晶「樹枝六花」
(出典:気象研究所、撮影:荒木健太郎)

人口と世帯
(平成30年12月1日現在)

人口=67,566人(前月比-19) 男=35,105人(前月比-13) 女=32,461人(前月比-6)
世帯=28,406世帯(前月比-5) 面積=106.02km²

広報 かしま

【発行】鹿嶋市 〒314-8655 茨城県鹿嶋市大字平井1187-1
【編集】政策企画部 広報推進課
☎ 0299-82-2911(代表) ☎ 0299-82-0789
🌐 <http://city.kashima.ibaraki.jp/>
📧 kouhou1@city.ibaraki-kashima.lg.jp



市公式ホームページ
(スマートフォン用)

マチイロ

~もっと鹿嶋が好きになる~
アプリで広報かしまや
市ホームページの新着
情報を確認できます。



▲ダウンロード用
QRコード